

# 731部隊細菌戦「負の遺産」と どう向き合うか (第1回)

731 部隊細菌戦資料センター  
共同代表  
岐阜環境医学研究所所長  
松井英介



皇軍 731 部隊・栄 1644 部隊の医師たちが中国で行った非人道的な細菌攻撃。その被害者・遺族が日本政府を訴えた裁判で、日本の司法は細菌戦の歴史事実を認めました。東京極東裁判で免罪された医師たちの思想は戦後、医学界・製薬業界・行政機関などに受け継がれました。

かけがえのない個のいのちより国家の繁栄を重視するその思想は、当時中国人や朝鮮人など隣国の人びとを人間として扱わないという形で現れました。そして戦後その思想は在日朝鮮人をはじめとする在日アジアの人びとへの差別として今日まで受け継がれています。

同時にその思想は、皇軍の敗戦後、隣国人差別にとどまらず、アメリカ合衆国の軍事植民地と化した琉球・沖縄に暮らす人びとに対する差別意識という形で引き継がれていることが、ますます明らかになってきています。

さらに、その思想は、3.11 東電福島第 1 原発核大惨事後の今、核で汚染された地に住む自国の庶民のいのちと尊厳を踏みじじる、あるいは無視するという形で、草の根の庶民・市民の間にまで浸透してきているようにみえます。



【写真①】 Topographie des Terrors (恐怖政治の地勢図)  
看板の右は「ベルリンの壁」跡

このような思想は、身体や心に不具合を背負った人びとを、国家の経済的・軍事的繁栄に役立たない存在として排除する思想に、容易に転換するのではないのでしょうか。

次世代のいのちと尊厳を守るために一役買いたいと願う市民にとって、このような非人道的差別意識の克服は、最優先の必須条件ではないでしょうか。

市民といえば、ベルリンの市民運動が掘り起こしたナチス第三帝国の司令部本拠地跡に作られた博物館がよく知られています。Topographie des Terrors (直訳すると、恐怖政治の地勢図)と名付けられたこの広大な博物館には、連日多くの若者たち子どもたちを含む人びとがやって来て、自らの過去と向き合うのです。入場無料(【写真①】参照)。

これに加えて特筆すべきは、2014 年 9 月に Aktion T4 (T4 作戦)の野外記念広場がベルリン・フィルハーモニーの玄関に隣接するティアガルテン通 4 番地にオープンしたことです。人間の価値がないとして 20 万人もの障害者や精神病患者・子どもを選別して死に追いやったナチスの Eu-Aktion、Euthanasie 安楽死作戦について詳しく知ることができます。心身の不具合を背負った人びとの絶滅に医師たちはきわめて重要な役割を担いました。展示は夜間照明付き。ベルリン・フィル前のバス停には、大きな写真つき案内パネル。国立のこの施設へは年中 24 時間誰でも自由に立ち入ることができ、自分の過去・現在・未来を考えることができます。障害をもった人びとや子どもへの配慮も行き届いています(【写真②】参照)。

NHK の ETV 特集「それはホロコーストの‘リハーサル’だった ～障害者虐殺の 70 年目の真実～」が話題を呼んでいます。

2015 年 11 月 7 日(土)夜 11:00 ~ 11:59 に初放映され、翌週 11 月 14 日(土)0:00 ~ 0:59 (金曜深夜)に再上映されました。そして先週 2016 年 9 月 24 日(土)に再々上映。

さらに翌週 10 月 1 日(土)0:00 ~ 0:59 (即ち金曜深夜)に再々々放送が予定されています。



【写真②】 Aktion T4, Eu-Aktion: Euthanasie 安楽死作戦記念広場、奥の建物はベルリン・フィル

(次号につづく)